

第23回

Carving Modeling Exhibition

彫 塑 展



筑波大学
University of Tsukuba

芸術専門学群・博士課程芸術専攻・芸術学学位プログラム

ご挨拶

筑波大学彫塑展は、芸術専門学群および大学院の彫塑領域の学生が一年間の学びと研究の成果を、それぞれの立場から問う展覧会です。本展は教育の一環として、展覧会開催に関わる企画・運営などの実務を経験することも目的とし、平成11年から毎年開催してきました。

令和3年度も引き続き、芸術分野においてもコロナ禍による影響は大きく、様々な制限のもとでの活動を余儀無くされた一年でした。感染状況を鑑みて、第23回展となる今回も昨年同様、「学内展示+オンライン」の形式をとり、関連展として有志の小品を湯島聖堂に並べるかたちとなりました。展示の様子は筑波大学彫塑教室のWebサイトでも公開しております。ご高覧のうえ、忌憚の無いご批評・ご意見を賜りますれば幸いです。

末筆ではございますが、この展覧会のためにご支援ご協力を賜りました皆様に深く感謝申し上げます。

令和4年3月

筑波大学芸術系彫塑担当教員一同

ー第23回筑波大学彫塑展ー

会期 2022年3月1日(火)~3月8日(火) 10:00~17:00
(最終日は14:00まで)

会場 筑波大学 総合研究棟D 1Fギャラリー

ー 関連展示 ー

会期 2022年3月5日(土)~3月27日(日)

土日・祝日のみ、10:00から閉門時間まで

会場 湯島聖堂大成殿

レセプション、ギャラリートーク、タッチツアー等、
本年も展覧会イベントの実施を見送る判断となりました

第23回筑波大学彫塑展WEB公開2022年3月2日(水)から
<https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/chouso/>



<後援> 公益財団法人斯文会





sora

瀬島 那月 SEJIMA Natsuki

H.60×W.50×D.30(cm) 樟

兄をモデルに、なるべく真っ直ぐな気持ちで制作しました。



待ちわびる / Waiting

法水 千尋 HOSUI Chihiro

H.190×W.70×D.50(cm) 石膏

塑造の楽しさを感じながら、モデルさんの持つ雰囲気
を表現できるよう意識して制作しました。

おくりもの / Gift



夕向 杏奈 YUMUKI Anna

H.30×W.45×D.35(cm) 大理石

木蓮の蕾をモチーフにしました。
自然からあなたへのおくりものです。



身支度 / Get dressed

木崎 由実子 KIZAKI Yumiko

H.86×W.58×D.55(cm) 樟

朝の身支度は結構面倒だけど、結構好き。
でも結局ギリギリまで寝ちゃって、
寝癖を直す暇もなく髪をまとめる。私の生活。



穹 / Sky arc

沢辺 裕子 SAWABE Hiroko

H.188×W.46×D.48(cm) 乾漆、樟

漆の奥深さに魅かれて制作しています。

題名の「穹（きゅう）」は、この像を横から見た時の「反り」の感じが、空を描く弧のように見えたことによります。

静けさの中にある張り詰めた感じを表したいと思いました。

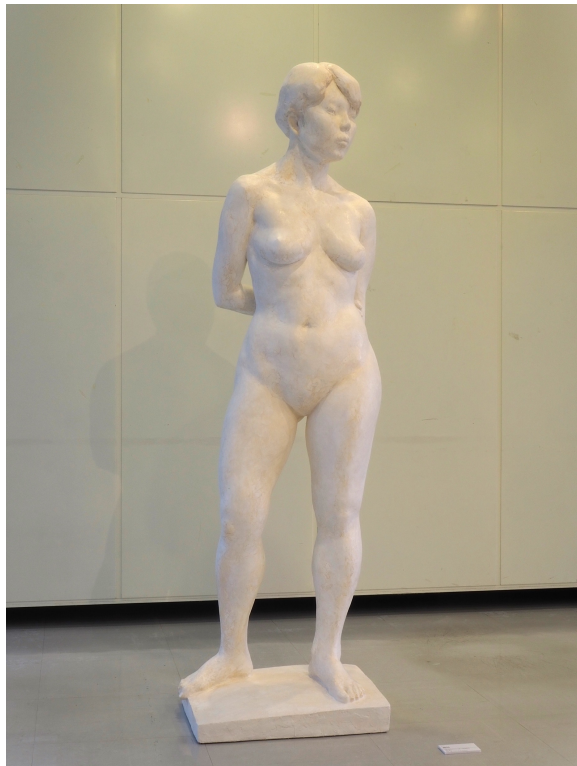
手を洗う/祈る
Wash hands / Pray

野口 珠希 NOGUCHI Tamaki

H.30×W.20×D.20(cm) 浮金石

日本庭園や茶道における露地のファウンド・オブジェ。
その模倣と複製は何を語るのか。





裸婦 / Female nude

黒田 雅大 KURODA Masahiro

H.190×W.55×D.45(cm) 石膏

大学院では多くの人体塑像を制作しており、その日々の延長として修了制作に臨んだ。

素朴ながらも長時間の鑑賞に応えられるような作品を目指したいと考えている。

憂鬱 / Melancholy

本多 史弥 HONDA Fumiya

H.80×W.65×D.75(cm) 信楽赤粘土

通常よりも高温で焼成することによって生じる素材感の変化をテーマに制作しました。





進化と朽滅/ Evolution and decay

最上 健 MOGAMI Ken

H.198×W.89×D.62(cm)

樟、胡粉、水干絵具、墨、他

人間の営みが進化する事と朽滅がテーマです。
人間のコントロールを超える技術の発達に精神や社会構造は追いつけておらず、足元からは朽滅が迫っています。いろんな人に迷惑かけながら一人ではできない作品でした。



駘蕩 / Carefree

町野 紗恭 MACHINO Sakyo

H. 210×W.75×D.55(cm) 石膏

「駘蕩(たいとう)」とは、のどかで、のんびりとして
いる様子のことです。モデルの伸びやかさや、その中
に在る豊かな量感を表現しようと思いました。

ティラノサウルス / Tyrannosaurus



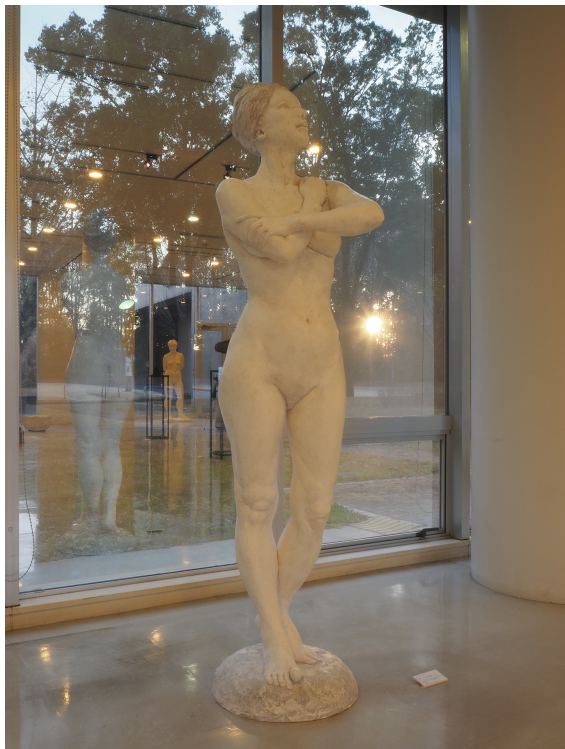
圖子 綾人 ZUSHI Ayato

H.40×W.15×D.45(cm)

漆、砥の粉、麻布、大鋸粉(ヒノキ)

ティラノサウルスは中生代後期白亜紀の北アメリカ地域に生息していた大型獣脚類である。

咬筋の発達により異様に幅広くなった後頭部が特徴であり、陸生動物としては史上最強の咬合力を持っていたとされる。



ターバンの女 /
Woman wearing a turban

羽室 陽森 HAMURO Yoshin

H.185×W.50×D.50(cm) 石膏

上昇のイメージと、色彩の喪失。
進展と解体のための探り。



記録する鳥 /
A bird Keeps a record

鹿山 卓耶 KAYAMA Takuya

H.30×W.15×D.30(cm) ブロンズ、櫟

「今」や「現状」について、確からしい何かを残そうとするのではなく、よくわからないことであっても記録しておくことで、現時の視点から「当時」として形を捉えることがあってもよいのかもしれない。

総合研究棟D1Fギャラリー展示風景



湯島聖堂大成殿展示風景



子供 最上健



まなざし 町野 紗恭



GARDENER/FLOWER 羽室 陽森

編集 / 筑波大学芸術系彫塑研究室

ロゴデザイン / 林嘉美

印刷 / 株式会社グラフィック

発行 / 筑波大学芸術系彫塑研究室

©2022筑波大学芸術系彫塑研究室

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1